

〔学術講演会報告〕 アルミン・エングレンダー教授 「拡張された緊急避難？ 気候政策への抗議活動に 対するドイツ刑法典34条の適用可能性について」

小 島 秀 夫

講演者：アルミン・エングレンダー教授（ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン）

テーマ：「拡張された緊急避難？ 気候政策への抗議活動に対するドイツ刑法典34条の適用可能性について」

Der entgrenzte Notstand? Zur Anwendbarkeit des § 34 StGB bei Protesten gegen die Klimapolitik

コメンテーター：ティル・ツィマーマン教授（トリアー大学）

「アルミン・エングレンダー『拡張された緊急避難？』へのコメント」

Kommentar zu: Armin Engländer, „Der entgrenzte Notstand?“

通 訳：川口浩一教授（明治大学）

場 所：明治学院大学白金校舎1255教室

（講演者紹介）

エングレンダー教授は、教授資格論文のテーマである緊急救助のみならず、ドイツにて1853年に創刊された権威ある学術雑誌「ゴルトダンマー刑法雑誌」の編集者を務めるなど、現在のドイツ刑法学をリードする研究者である。また、ミュンヘン大学の法哲学講座も率いており、法哲学の分野では、実証主義を貫徹する立場から深い洞察を加えている。

（コメンテーター紹介）

ツィマーマン教授は、緊急権や汚職犯罪を中心に重厚な研究活動を展開している新進気鋭の刑法学者である。近年では、新型コロナウイルスの爆発的感染状況下におけるトリアージを契約論の観点から考察するほか、ドイツにおける代表的な教科書の1つであるウルス・キントホイザー『刑法総論』の後継者にも選ばれている。

（講演の概要）

近年、ヨーロッパでは、環境活動家の過激な行動が問題になっている。そこで、今回の講演では、環境活動家による行動が、気候変動を止めるための緊急避難として刑法上正当化されるか、というテーマを取り上げた。エングレンダー教授からは、樹木の伐採を妨害すべく他人の敷地に侵入した行為が緊急避難として正当化されることを認めたフランスブルク区裁判所の判例が紹介され、その論拠に批判的な私見が展開された。また、ツィマーマン教授からは、エングレンダー

学術講演会

教授の講演に対して有益なコメントが出された。講演の内容に関する詳細は、明治学院大学法学研究115号（2023年8月刊行予定）に掲載予定の拙訳を参照されたい。